

日本から流れる放射能雲の移動：IRSN は環境の監視を強化 – 予想される空气中セシウム 137 は微量

3月12日以降事故の発生した福島原子力発電所の核反応炉から放出されている放射能雲は北半球気流に乗りその濃度を弱めつつも移動中。IRSN はフランス気象庁と共同でこの度の（放出後の放射性物質）拡散シミュレーションをおこなった。このシミュレーションによって放射能雲の動きを追ひ、かつ予測することが可能になった。

動画の再生

このシミュレーションによると放射能雲は昨日日中北アメリカの大部分とシベリアの北東部を覆っていた。現在、放射能雲は北大西洋上空を通過中で、サン・ピエール・エ・ミクロン、アンティリアス域に届くはずである。フランス本土には3月23日か24日に到来する見込み。

放射能雲に見舞われた地域の予測される空气中セシウム137の濃度は極めて低い。セシウム137は核事故によって遠距離へと放出された放射能物質の典型的な放射性核種である。

（予測される）空气中セシウム濃度は極めて低いレベルで、現在 IRSN が設置している170のモニタリングポストネットワーク（Téléray = テレレイ）の装置では測定不可能である。テレレイの測定値は IRSN のウェブサイトにてアクセス可能。

空气中の放射能測定値結果チャートはこちら。

- 本土
- サン・ピエール・エ・ミクロン
- タヒチ
- ガイアナ
- グアダループ
- マルティニーク
- レユニオン
- ニューカレドニア

IRSN は米環境保護庁と同様にこれらの空气中放射能濃度は極めて低く健康、環境ともに害を与える心配はないと考えている。このような微量な濃度は屋外での探知ができず、専門試験所でのサンプル測定の場合のみ検出が可能と思われる。

IRSN はフランス本土にこのような専門試験所を設けている（他にも南半球のタヒチにも設置されているが、タヒチは今回の放射能雲の主流コース外にある）。IRSN は専門試験所での検査結

果が得られ次第即時に発表する。検査結果が出るのは放射能雲通過後数日になる見込み。サン・ピエール・エ・ミクロンとアンティリアスについてはアメリカで分析されたデータがこれらの地域の（濃度）状態にあてはまると考えられる。